



ケンタ君

去年の台風 19 号ではあちこちで水があふれて
たいへんだったよね。

水がたまったようすがよくわかる浸水推定図という
地図があるのじゃよ。



マップ博士

令和元年（2019）台風第 19 号は、10 月 12 日に伊豆半島に上陸し、主に東日本の広い範囲で川があふれたり浸水する被害が起きました。大雨が降って浸水被害が起きた場合、これまで国土地理院では空中写真から水面の範囲をくわしく調べて地図に表していました（図 1）。しかし、天気がよくなり空中写真撮影ができるようになったときには、水が引いた後で、水面の範囲を地図に表すことができないこともあります。

そこで作られるようになったのが浸水推定図です。浸水推定図は次のように作ります。

- (1) Twitter の映像などから水面の端の部分（図 2）をさがし、その場所の標高データから水面の標高を調べます。そうするとその場所よりも低いところには水がたまっていることになります。
- (2) 標高データを使っていろいろな場所の標高と水面の標高をくらべてそれぞれの場所の深さを調べます。
- (3) 深さによって色をつけます。

浸水推定図は、浅いところを薄い青色、深いところを濃い青色にしているので、水面の広がりだけでなく水の深さもイメージしやすい地図（図 3）になっています。

台風第 19 号では、早く作成できた千曲川と阿武隈川の一部の浸水推定図を 10 月 13 日にホームページから公開し、その後千曲川、阿武隈川、久慈川、那珂川、吉田川、荒川水系の 6 つの川の浸水推定図を公開しました。これらの浸水推定図は、たまった水を排水するポンプ車の配置にも使われました。

台風第 19 号による浸水推定図は国土地理院ホームページに載せていますのでぜひ見てみてください。

(<https://www.gsi.go.jp/BOUSAI/R1.taihuu19gou.html#11>)

※図の名称を浸水推定段彩図から浸水推定図に変更しました。

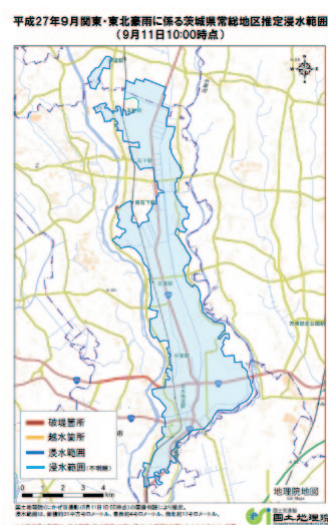


図 1 空中写真を調べて作成した地図



図 2 水面の端の部分

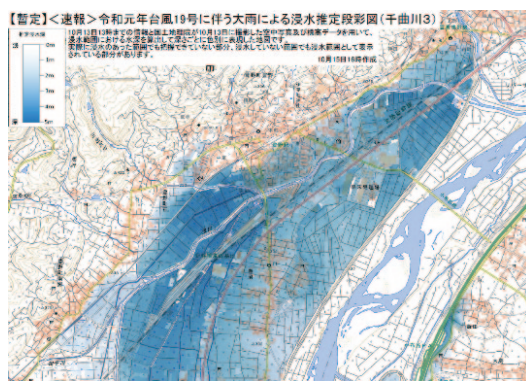


図 3 浸水推定図

(応用地理部)